香川の野鳥ファイル No. 42 オオバン

夏鳥から冬鳥、そして留鳥に変化?

▲オオバン 2015.1.16 PHOTO◎坂田和男

オオバン *Fulica atra* は、全身黒色で、嘴と額（額板）の白色が目立つカモに似た水鳥で、直近の日本鳥類目録では北海道が夏鳥、本州が留鳥または冬鳥、四国・九州は冬鳥(ただし福岡・大分は留鳥)とされています（日本鳥学会, 2012)。

ところが香川県では、1960 年代は「渡り鳥（夏）１部留鳥」と記載されています(岡内, 1968)。

また 1970 年代の文献では、「県内の池，川の水草の多い所に生息するが，個体数は少ない。」と記載されており、記録として 1972 年 11 月 5 日の詫間町など 3 件が掲載されています（香川野鳥の会, 1977)。これと同じ記録を掲載する 1980 年代の文献でも「夏鳥」としています(香川県環境保健部自然保護課, 1980)。

ところが 1990 年代前半には、「本県には秋期から冬期にかけて渡来し，まれに越冬するものもいる。」「個体数は非常に少なく，減少しつつある野鳥である。」（香川県, 1993) という記載に変わります。個体数の少なさは変わらないものの、渡来時期が「夏鳥(一部越冬)」から「冬鳥(一部越冬)」に変化しています。どうも 1990 年代前半に、オオバンの渡来時期に変化があったようです。

ただ、一部は夏にも生息していたため、90 年代後半からは「留鳥　少」(四国新聞社, 1996)や「留　冬鳥としてため池などに渡来」（第 53 回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」記念誌編集委員会, 1999)と、一年を通して見られる「留鳥」と認識されます。また、2000 年代に刊行された香川県のレッドデータブックでは、「多くは冬鳥であるが、周年観察できる所もあるので、繁殖の可能性もある。」として、個体数が少なく、生息環境が悪化傾向にあることから「準絶滅危惧（NT)」に区分しています(香川県希少野生生物保護対策検討会, 2004)。

筆者(岩田)も 1990 年代前半から野鳥観察していますが、当時は少ない冬鳥であり、夏にいると「慌てるほどではないが珍しい」と感じたように思います。ところが最近はかなり増加したように感じていますが、なぜでしょうか?

1990 年代に、中国から集中的に越冬化?

この点について、興味深い記事が報道されました(産経新聞, 2015)。そのポイントは次の通りです。

①琵琶湖で急増しており、H18(2006)の約 2 万 2 千羽から、H27(2015)の約 6 万 2 千羽に増加した(約 2.7 倍)。

②全国的なデータはないが、国内の 6 割以上が琵琶湖に集中している。

③「1990 年代に中国で大規模な洪水が起きて以降、その地域の越冬集団が分散し、徐々に琵琶湖に定着した」（名城大学農学部　橋本啓史助教）という推測がある。

まず①、琵琶湖では万単位で増加していますので、やはり全国でも増加傾向にあることは間違いないでしょう。香川県で最近よく見かけるもの納得できます。

また、香川県の渡来時期の記載の変化から、1990 年代前半までにターニングポイントがあったことは確かです。よって③のように、それまで少数が夏に渡来していたところに、1990 年代に中国の越冬個体が大量に流入したとすれば、以降、冬鳥としての渡来がメインとなったすれば、納得できます（一度に大集団が動くことは考えにくいので、徐々に冬鳥グループが増加したと思われます)。

残念なのは、個体数の記録推移が無く、香川県での変化を詳しく調査できないことです。近年増加しているミコアイサも同様の理由かもしれません。オオバンのように身近な野鳥でも、記録を残す必要があることを痛感します。

・1977.香川野鳥の会,香川県鳥類目録　A list of Aves in Kagawa 1977.11.20

・1968.岡内英孝. 香川県に於ける野鳥の生態, 岡内英孝

・1980. 香川県環境保健部自然保護課,香川県鳥獣目録　昭和 55 年 3 月,香川県環境保健部自然保護課

・1993. 香川県. 香川県のとりとけもの　平成 5 年 3 月, 香川県

・1996. 四国新聞社　編集協力:(財)日本野鳥の会香川県支部. 香川の野鳥ウォッチングガイド

・1999. 第 53 回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」記念誌編集委員会（編集協力）日本野鳥の会香川県支部. 香川県鳥類リスト, 第 53 回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」記念誌「かがわの野鳥」,香川県

・2004. 香川県希少野生生物保護対策検討会「香川県レッドデータブック　香川県の希少野生生物」(香川県環境・水政策課)